



### 「高知発、21世紀の食を求めて」“食文化”連続講座 第Ⅱ期受講生募集

現在は食べ物が多種多様になったことや季節はずれの食べ物を食べることで食生活が豊かになったと錯覚し、食べ物の視点が脱線して飽食の時代となり、健康が損なわれているのではないのでしょうか。「飽食は放食につながる!」と考えるのは私達だけでしょうか?食の信条、思想として用いられている言葉に「身土不二」があります。「身土不二」とは「身体(身)とその環境(土)とは不可分に(不二)であり、その土地の自然に適応した作物を育て、それを食べることにより健康を維持する」という意味です。食のグローバル化ではなく、地域に根ざした食になれば、そこに自然と「人類の持続社会」への到達への答えがあると思うのですが…。

NPO高知県生涯学習支援センターは「高知発、21世紀の食を求めて」を開講し、第Ⅰ期(全10回)が終了しました。第Ⅱ期(全10回)を第Ⅰ期と同じ万田株式会社高知支店(高知市本町1-1-3 朝日生命ビル9F)会議室で11月5日から下記の日程で午後6時30分から午後8時まで開催します。お誘い合わせの上、ご参加ください。

月・日	講義テーマ	講師
11月 5日(金)	土佐産業史から見た飲食文化	土佐史研究者 広谷喜十郎
11月12日(金)	人間はどんなマメをたべてきたのか? その一万年の歴史	高知大学名誉教授 前田 和美
11月19日(金)	中国が日本を征服した?納豆、蒟蒻の侵略?	高知大学農学部助教授 芦内 誠
11月26日(金)	“おいしい”をつくる百姓の話	安全をつくる百姓 井口 無着
12月 3日(金)	名画で見る人類健康学-藤原道長は糖尿病だった?-	高知女子大学生生活科学部教授 佐藤 厚
12月10日(金)	魚煉り製品、「かまとと?」	高知県工業技術センター 野村 明
12月17日(金)	食物の香りの科学	高知大学農学部教授 沢村 正義
12月24日(金)	食用植物資源を世界に求めて	(財)牧野植物園 小山 鐵夫
1月21日(金)	弁当箱ダイエット法	高知大学教育学部教授 針谷 順子
1月28日(金)	偉大な豆の話	(有)下田食品社長下田 起義

※題目、講師、月日など若干変更があるかも知れません。

## 遍路研究の集い 世界から見た四国遍路

「お四国まわり」。この私どもの風土に長く育まれてきた庶民宗教文化を、世界的な見地でアカデミックに検討してみたら何が見えてくるだろう。こんな壮大な試みに、愛媛大学が三年間も、取り組んできました。

この愛媛大学の公開講座「四国遍路と世界の巡礼」プログラムの後、高知市内でも「遍路研究の集い」をお願いいたしました。

三年間にわたるシンポジウムのまとめ役の内田九州男教授(愛媛大学法文学部)、その研究室で“四国遍路”をテーマに修士論文を完成させたナタリー・クワメさん(フランス国籍)。善根宿や道標石で知られる真念の研究でお馴染みの喜代吉榮徳氏(早稲田大学講師・新浜市東田大師堂住職)。それに愛媛大学での今秋のシンポジウムの基調講演のためにフランスから来日します巡礼研究家ジャン・シェリニ氏にも、話していただきます。

### 「私と四国遍路研究」

ナタリー・クワメ(フランス女性で愛媛大学で修士取得)

「江戸時代の四国遍路—あたらしく見えてきたこと—装束・心願・身分—」

内田九州男(愛媛大学 法文学部 教授)

「四国遍路道の父・真念について」

喜代吉榮徳(早稲田大学 講師・真言宗東田大師堂住職)

「日本訪問の印象」

ジャン・シェリニ(仏マルセイユ生・文学博士・巡礼研究家)

日 時:平成16年11月2日(火)午後1時より

会 場:教育センター分館(高知市大原町132番地)

南棟1階 大講義室

参加費:無料(電話・ファックス・またはメールで事前申込みをお願いします)

# 第1期「食文化」連続講演、 「高知発、21世紀の食を求めて」大好評!!

今の日本社会では食物が多種多様になったことや季節はずれの物を食べることで食生活が豊かになったと錯覚し、食物の視点が脱線して飽食の時代となり、いつの間にか健康が損なわれているのではないのでしょうか。こうなれば「人類の持続社会」への到達にはますます道が遠いものとなるでしょう。「飽食は放食につながる!」と考えるのは私達だけでしょうか? 私達、NPO高知県生涯学習支援センターでは、多くの分野の方々に御協力いただき「高知発、21世紀の食を求めて」という連続講座を始めました。



平成16年7月16日、第1期の食文化講座が堀詰電停近くの朝日生命ビル、9Fの「万田株式会社」会議室を借用して始まりました。第一回目は高知県生涯学習支援センター山本理事長の「遺伝子

組換え食品、BSEなどの今日的課題と安全な食品を求めて」で始まりました(写真左上)。初日のことでしたが、多くの聴衆の中で遺伝子組換えなど難解な専門用語を平易な言葉と説明で聴衆を魅了した講演でした。



第二回は7月23日、高知県食品検査センター長、上岡英和氏による「夏が来た、食中毒対策は大丈夫?」(写真右上)。

第三回は7月30日、高知大学農学部、受田浩之助教授による「特定保健食品とは」と題した、まさに21世紀を見通した食品の講義で

した(写真上)。「特定健康食品」? 耳慣れない言葉でしたが、案外と我々の近くのスーパー・マーケットに出回っている食品があり、認識を新たにされた人が多かったのではないのでしょうか?

食には3つの機能があり、栄養(生命維持)、味覚(グルメ)、体調調節(体調リズム調節、生体防御、疾病予防、疾病回復、老化防止)で、健康との係わりではこの体調調節の働きがある食品が特定保健用食品です。

特定保健用食品と普通の食品を見分ける厚生労働省の許可マーク



今年(2004年)は国際コメ年です。数々の会議、学会、シンポジウム等が世界各地で開催されました。これらの話題も含めて稲、コメの基礎から「今年(2004年)は国際コメ年!世界の米・日本の米、おいしいお米とは?」と題して高知大学農学部山本由徳教授(写真右上)の講演が8月6日にありました。



コメは世界の半数以上の人々の主食となっており、世界的にも重要な食料で、また、開発途上国における飢餓問題の解決にも、大きな役割を持っているそうです。

夏休みを挟んで、9月3日には高知工業技術センター、上

東治彦先生には「南国土佐酒はなぜおいしい?」と題して、高知生まれの酒米の優秀性、その酒米で造られた土佐酒、全国日本酒品評会で金賞を高知の酒造会社が続々と取り始めた昨今(2004年)の話題を理論から応用まで判りやすく、しかも、試飲付きの講義が行われて聴衆は大満足でした。



9月10日、高知県森林技術センター、今西隆男氏(公認きのこアドバイザー)(写真左)は「秋がきた!毒茸?松茸!アガリクス!ヤマブシタケ!鼻茸?」と題して、華やかなキノコ、毒のあるキノコ、美味しいキノコの多数の写真とともに、「粘菌学者、南方熊楠の世界」にも我々を引き込ませて

くれました。

9月17日の講師は、23才の若さで「スワヒリ語文法」を著し「素足の文化人類学者」と称され、蝦蟇屋敷(三鷹市の自宅)に住み、世界中足を踏み入れない国はないと言う文化人類学者、元早稲田大学教授、西江雅之先生(写真右上)でした。軽妙な話術とともに、「食物の比較人類学」の講義がありました。若干、先生の著書などをかじったことのある人でないと判り難い食文化哲学だったかもしれません。



詳細はキリンビール大学; (<http://www.kirin.co.jp/daigaku/CUL/index.html>)をご覧ください。



9月24日、高知大学農学部伊藤慶明教授(写真左)の「海洋深層水の真相 深層水は表層水や食塩水より美味しいのか」の講演では万田株式会社会議室は、「真相を探る実験研究室」と化して真相を追求する場となりました。

10月1日は、土佐史研究家、谷 是氏の「神祭じゃ!「おせ」から「こびんす」までの皿鉢料理!」、10月8日、永國淳哉高知県生涯学習支援センター長による「漂流者(ジョン万次郎)と科学者(寺田寅彦)の味覚の差」で第1期が終了します。これらのすべての内容などについてはNPO 高知県生涯学習支援センターホームページ(<http://www.kolec.jp>)に掲載する予定で準備を進めています。

# 10月生涯学習アニメータ月例会のお知らせ

## テーマ「職業適性検査・生活診断等と進路指導」

10月20日(水) 午後2時から午後3時30分まで

誘いあわせて参加下さい

### 第3回 不登校・高校中退者のための進路相談会

専門学校・大学中退者、社会人も歓迎。大学3年編入指導もします。

個性的な生き方が求められる時代。

通信制から海外留学まで、多くの進路があります。

また「勉強は好きじゃないけど、バイトならやりたい」という若者のために文部科学省は日本版デュアルシステム(アルバイト等の単位認定)もすすめています。この機会に「自分なりのルール」を探してみませんか? 専門学校、大学編入、大学中退者、社会人のための相談も歓迎です。

(記)

日時:平成16年12月15日(水) 午前10時~午後12時30分

会場:教育センター分館 南棟2階 中講義室

参加費:無料(事前申し込みの必要はありません)

内容:10:00~10:30 基調講演「不登校生・高校中退者等の進路相談(これまでの事例から)」

講師 友村憲朗(高知県心の教育センター 所長)

10:30~11:30 各学校、団体よりメッセージ

11:30~12:30 個別相談

(大検指導、留学相談、通信制単位制高校、高等専修学校、中途入学・編入可能な学校、フリースクールなど)

### 9月生涯学習アニメータ月例会の報告

生涯学習アニメータ9月月例会が、9月15日(水)に開催された。問題提起プレゼンターとして森田道子さん(高知市在住、高知県家庭教育サポーター)が「子どもの生活習慣(学び、学習、マナー等)とその改善策」をテーマとして話し、参加者で話合った。

まず、最初に、生活習慣の中で一番気になる点は、早起早寝が出来るかと言う事で、森田さんが参加者に問いかけた。

どの家庭でも、簡単なようではなかなかできないのが現状。中でも、悪循環を生むのが、夏休み。そこで改善策として、中学生では、よさこい踊りの導入、高校生では、アルバイトの推奨が、効果として現れるのではと、森田さんが体験をふまえて提案。よさこい踊りについては、参加者の中でも事例でよい結果を出している学校があった話が多く出た。

また日本では、デュアルシステム(職場教育重視)がカリキュラムに導入されはじめており、アルバイトも教育の一環としてとりいれていく文部科学省の方針が話し合われた。あと、ほかに参加者の方から発言があったのは、学校の規則の見直しが必要ではないかなどであった。

### しばてん文庫「著者を囲む会」岩崎義郎さんに聞く

高知県内の出版物ならびに著者を紹介し、高知県の出版文化振興をはかることを目的として、平成16年9月18日(土)に教育センター分館 南棟2階 中講義室にて、しばてん文庫「著者を囲む会」が開催されました。

第一回目は、土佐観光ボランティアガイド協会会長としても活躍されていました岩崎義郎氏が、右記の2つの労作について語ってくれました。「癌の宣告を受け、あと5年の命といわれた時、まとめておかねばならないと思い、行動を開始した」とNHK大河ドラマに「功名ヶ辻」が決定して、労作にも全国的な注目が集まってきた話や、土佐の歴史史料の見つけ方から整理の仕方まで、丁寧に指導していただいた。



岩崎義郎氏の出版物

「土佐人の銅像を歩く

一龍馬・慎太郎から万次郎へ」

(リーブル出版)

「一豊の妻・見性院 出自の謎」

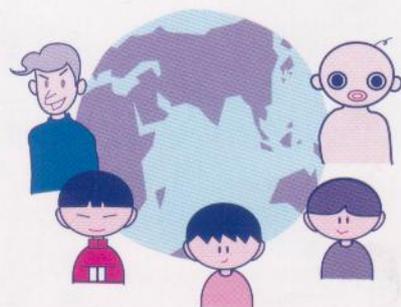
(リーブル出版)

### 豪州クインズランド州教育省小中学校生のためのホームステイ国際交流

ホームステイを中心とした留学(休暇中、短期、長期など)を、より教育的効果のあがる事業に発展させるため、平成16年9月24日(金)教育センター分館でオーストラリアの先生の講演があった。

夏休みなどに学生の海外派遣事業を計画している学校、市町村国際交流担当者や留学希望者本人、保護者の方々が参加、高幡地区中学生と交流10年の実績をもとに、同プログラムのオーストラリア側のコーディネータを担当してきたMs.Olive Jones先生(ウッドフォード州立学校国際交流担当教諭)が、効果的なホームステイ(英語力、習慣など)、教育的な交流プログラム(学校、週末など)、事前活動(教育的な資金集め案ほか)について話していた。

市町村合併問題で、中断しそうな学生の国際交流プログラムを持続可能なものにするための提案が多く非常に参考になりました。



「目指すところは生涯の学び、何時でも、誰でも、何処でも学べる社会の創造」の目標をかかげて、平成16年4月に教育センター分館南棟2階に開設。多くの方々の期待と協力を得ながらNPO法人として第一歩を踏み出して半年がすぎました。本年度前期活動のあらましを報告し、県民の皆様方のより一層の協力をお願いします。

## 情報収集・調査研究活動

### ◎情報収集整理

県委託ポータルサイトのための情報収集・整理段階。開始した生涯学習アンケート基礎調査は、年度内にまとめる。「高知県における小学校の英語教育実態調査」完成。10月中旬に公表。

### ◎図書、視聴覚等管理

貸し出し、整理とも順調。より多くの県民(団体)の一層の活用をうながす方向で検討。

### ◎四国フィールドスクール・黒潮オーシャンスクール準備

11月2日の「世界から見た四国遍路」の「遍路研究の集い」で愛媛大学の協力を得ながら遍路道の生涯学習活用を構築する基礎を準備。

## 情報提供・相談活動

### ◎ホームページ作成公表

毎月更新。前期6ヶ月間のアクセス約650件。県教育委員会生涯学習課ホームページにリンク。

### ◎ニューズレター

毎月発行。6号まで。各号1000部。

### ◎生涯学習コンサルタント事業、教育進路相談会、教育カウンセリング事業

家庭教育サポートを中心に活発化し、5月と9月の進路相談会も予想以上の参加者を得た。

進路相談電話・メール相談もボランティア(3名)の協力もあり開設した。

今後の課題として①家庭教育サポートほかボランティアの活動が、まだまだ日常化される方策が見つからない②財務の問題(講演者、参加者等の交通費、進路相談参加団体=賛助会員の会費問題など)③進路相談システムの構築は緊急課題(情報の収集・整理、相談受付体制、メンタルフレンド活用、大学との連携等)

### ◎キャリアアップ情報提供、自立挑戦プラン相談事業

6月にヤングジョブカフェが高知市に開設され、当初の計画の大部分の活動が消化できそうなので、今後、その組織とどのような協力関係としていくかが課題である。

10月の生涯学習アニメータ月例会で「職業興味テスト」などを計画しており、後期に向けて活動を開始したい。

## 指導者養成活動

好評を得た食文化10回シリーズ講座「高知発、21世紀の食を求めて」が平成17年度開講を予定している「しばてん県民カレッジ」のモデル事業となった。

同シリーズ食文化講座は、後期にも開催するだけでなく、高知市以外の県内各地で開講を検討し、実現させたい。

今後の課題として①講座のまとめ(報告書、ビデオ処理等)の問題②受講者数の確保③場所(民間業者協力と公的活動問題も含めて)などの問題がある。その他、「老年学」なども試みているが、定期的な講座(10回シリーズなど)としなくては、①受講者の学習満足度②受講者確保③学費負担感など問題が多すぎた。

### ◎国際化教育指導者養成

高知県早期英語研究部会を高知大学那須恒夫教授(教育学部・英語)を座長に8月にたちあげた。第1回会合(8月23日)では那須教授が「早期英語教育の傾向と問題点」の演題で講義した。小学校での指導者と民間での実用英語インストラクターとの課題に

大きな差があり、今後年3回のペースで研究部会を開催していくこととなった。

### ◎情報化教育指導者養成

県のノートパソコン10台借用。しかしインターネット接続が不可とのことで、養成講座開講もできていない。生涯学習アニメーターの方々のコンピュータ学習に活用中。

### ◎環境教育指導者養成

NPO四国自然史科学研究センター(理事長:高知大学町田吉彦教授)と連絡しながら準備をすすめている。予算捻出が課題。

### ◎歴史文化指導者養成

龍馬研究会、土佐観光ボランティア協会、浦戸城址保存会、高知市古文書研究会などの協力で準備をすすめている。古文書の複製販売などの予算捻出の案も検討中である。

### ◎生涯学習指導者交流会

5月、設立記念のシンポジウムを県委託事業として、成功裏に実施した。予定されていた基調講演者の急病で、山本理事長がピンチヒッターとなるというハプニングもあった。緊急時における県委託事業に関わる予算の使途について多くの学習課題を残した。

## 生涯学習支援活動

### ◎ジョン万英語クラブ活動

指導者養成との連携で実施する計画。予算上、NPO資金作り目玉となっているだけになお慎重に検討して活動を開始したい。

### ◎こども英語弁論大会

3月に高知市民民憲章推進団体「KIS高知と世界を結ぶ会」(高知市民図書館)より行事を受け継ぎ実施した。今年は年度内(来年3月まで)にもう一度開催しなくてはならない。日本語暗誦大会も、同時開催の案もできおり検討中である。

### ◎マナビ親子IT活動

8月夏休みに「ちびっこパソコン教室~オリジナル名刺をつくろう」を実施、好評をえた。

### ◎マナビ環境冒険活動

夏休みに桂浜水族館で親子参加でイルカ、ペンギン、クラゲなどにタッチできる「自由研究の宿題をしよう」を企画し、8月23日(こどものみ参加)同24日(親子参加)の両日に実施し、好評をえた。

### ◎歴史文化ガイド活動

東津野村教育委員会、龍馬研究会の協力で、東津野村歴史街道ガイド養成第1弾を5月連休に実施。また6月19日には浦戸城址保存会の協力で「浦戸城下と町並み保存」を実施した。こうした活動の中で「蔵さがし」ボランティアが企画されたが、実施には至っていない。

### ◎国際交流推進事業

高知大学生涯学習教育研究センターの後援も得て、開国150周年記念ジョン万ツアーを10月に企画したがテロなどの関係で応募なしで中止した。

クインズランド教育省のプログラムを、高幡地区中学生との交流を10年継続してきた同州のウッドフォード州立学校のオリブジョーンズ先生の講演を9月24日に実施した。

### ◎その他

しばてん県民カレッジを平成17年4月開講予定で検討会を早急に立ち上げる。県予算に頼らない自立財政の道をさぐり、持続性のあるNPO活動体制にもっていきたい。



発行/2004年10月1日  
NPO高知県生涯学習支援センター(KOLEC)  
〒780-8031  
高知市大原町132番地(教育センター分館内)  
電話 088-833-0022 FAX 088-833-0023  
電子メール info@kolec.jp  
URL http://www.kolec.jp  
発行人/理事長 山本晋平  
編集/NPO KOLEC編集室 印刷/中島出版印刷

